

感性を科学する —ソフトなデータを「しなやか」に扱う—

Science for Kansei: Treating soft data in *shinayaka*-way



中森 義輝

知識科学研究科

2009 11/25 12:40 – 13:20

知識科学研究科講義棟 2F K3・4講義室

環境評価や商品選択における感性的評価(脳内の創発活動による洞察的・全体的な評価)をどのように分析すれば意思決定に有効に活かせるだろうか。評価は脳内で行われるにしても、それを伝えるための手段としては「言葉(形容詞や形容動詞)」が媒体となることから、「言葉」と「評価対象」の関係(親近性)を見出すことが必要となる。しかし、言葉による感性的評価には「経験などに依存する評価自体の曖昧性」と「言葉自体が持つ曖昧性」が内在する。そしてそれらは分離しがたい。ここでは、感性的評価から得られる間隔尺度で計測されたとは言いがたいデータを用いて、商品の推薦システム(対象の全体的評価)やデザイン支援システム(部分あるいは部分の組み合わせの評価)を開発するための「しなやか」な情報統合モデルを紹介する。



The slide is written in English. Foreign audience are welcome!



冬季の間、開催場所を変更します。K3・4講義室は、知識講義棟2F、学生課の向かいにあります。

学内連携セミナーは、JAISTで行われている研究の知識共有を目指しています。専門家以外も楽しめるセミナーを行いますので、ぜひ講師以外の研究科の方もご来聴下さい。

世話人: 鶴木、小矢野、橋本、長谷川、戸田、寺倉